

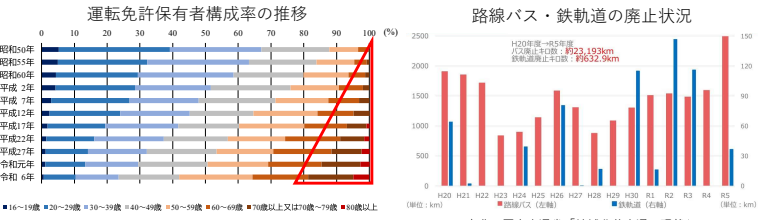
公共交通の利便性に着目した高齢者の移動実態に関する研究

岡山県パーソントリップ調査を用いて

交通まちづくり学研究室2025年度修士研究 林晃紀

はじめに

モータリゼーションの進展 → 自動車移動の増加 → 自動車移動を前提とした社会の定着

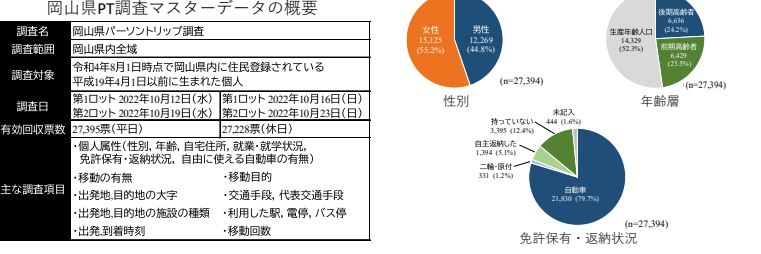


出典：警察庁資料より作成
免許保有者全体に占める高齢者割合：増加傾向
高齢運転者（75歳以上）による死亡事故：増加傾向
対策 コミュニティバス・デマンド交通の導入
高齢運転者に対する交通安全対策が課題
運転免許の自主返納を促す動きの活発化
デマンド交通を含めた利便性評価の必要性

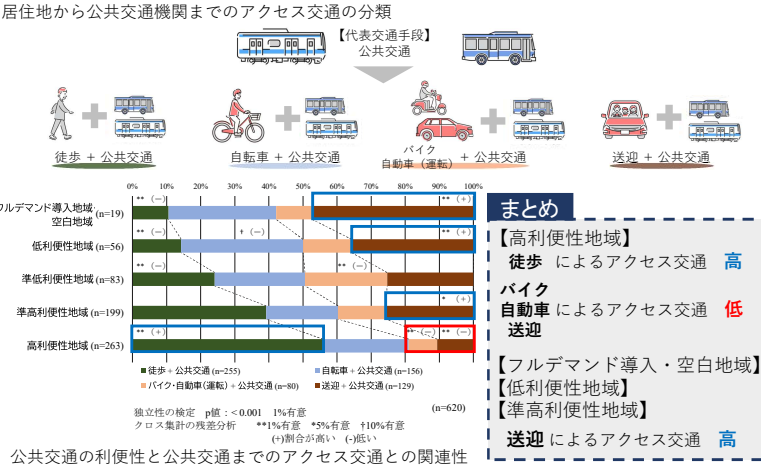
本研究の目的

公共交通の利便性を客観的な視点から定量化し、公共交通環境を含めた地域特性と高齢者の移動実態との関連性について明らかにすること

使用データの概要



高齢者の居住地から公共交通機関までのアクセス交通に関する分析

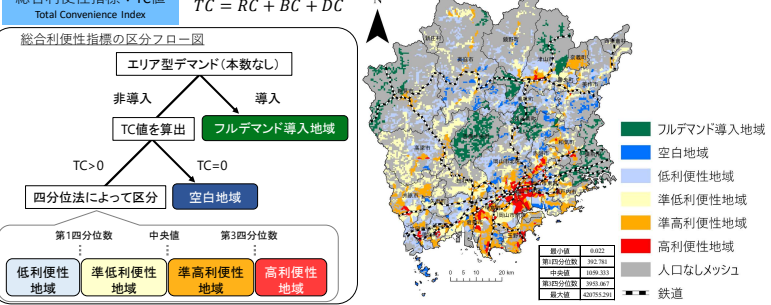
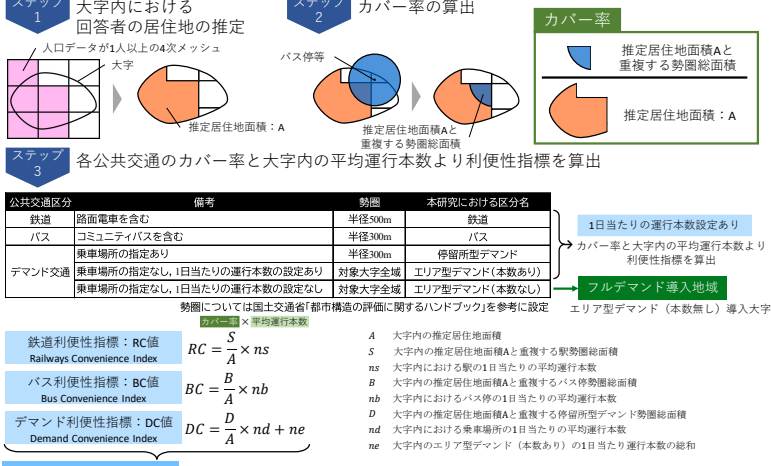


現在免許を持っていない高齢者の外出行動に関する分析



岡山県PT調査回答者の居住地における総合利便性指標の定義

岡山県PT調査における回答者の居住地 (大字単位) における交通利便性を定量化



免許返納後の後期高齢者の移動手段に関する分析



まとめ

- 送迎より公共交通を利用することに影響する要素
 - 75-84歳
 - 居住地が高・準高利便性地域
 - 移動距離が長い
- 送迎より徒歩・自転車を利用することに影響する要素
 - 移動目的が買物・私用
 - 移動距離が長い

結論

- 公共交通機関までのアクセスに関する分析より
公共交通の利便性が高い場合、高齢者であっても駅やバス停まで徒歩でアクセスしていることが示唆された
- 現在免許を持っていない高齢者の外出行動に関する分析より
免許の返納状況に依らず徒歩圏内に施設が充実している場合や高利便性地域において高齢者の外出割合が高い傾向
- 免許返納後の後期高齢者の移動手段に関する分析より
送迎より公共交通利用に影響する要素について
公共交通の利便性の向上が公共交通利用確率を高める可能性
送迎より徒歩・自転車利用に影響する要素について
買物や私用目的の移動は、徒歩・自転車圏内であることを示唆